

高橋さん。愛するたかはし、恋するたかはし、いとしのたかはし、ちよつと変わった趣味を持つたかはし、金髪ブルーアイのチャャーリーズ・エンジェルのような天パでキューティクルがツヤツヤのたかはし、ときどきイヤらしく腰を振る魅力的なたかはし、その優しいまなざし、柔らかな唇から発せられる優しい空気を含むように出てくるメロディーに何度と振る没木させられたことか。その彼は私の元を去ってしまったのだ。

高橋さんは地元JAながめまの地区担当者だった。この6年間、私を含め関係する地区の営農、農地、金融をはじめとするさまざまなことを相談して解決するJAの顔でもあった。彼はこの4月から野菜を扱う部署に異動になった。今までは11月から3月までは忙しかったが、野菜の部署は反対に夏の90日間は休みなしになるようだ。

彼はあの、北の国から、で有名な富良野の出身で、JA大学を卒業後、縁があり長沼にやってきた。ただこの異動には少なからずとも私が影響したようだ。

先々月号に書いた農地売買をあっせん事業で行なう件で、私は農業委員会と役場の農政係に「法律を逸脱した行為だ！」とクレームを申し出

た。4月以降に長沼の農業委員とあつせん委員が招集され、「農地売買のあっせん事業とは何なのか」「あつせん委員は関係者に農地売買を周知しなければならぬ」などを再度確認するようである。

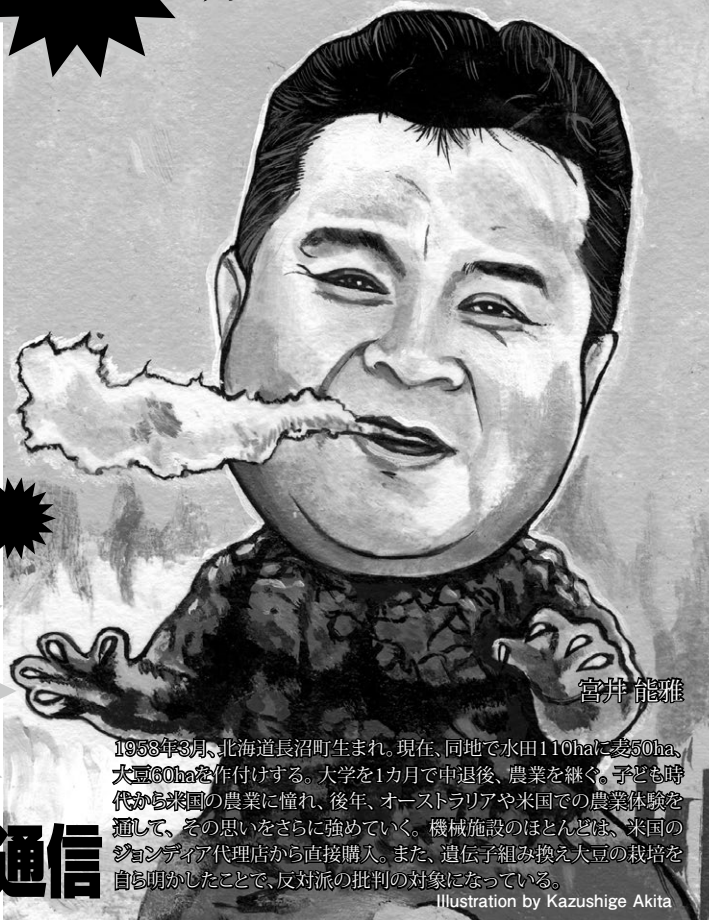
ここまでやると私の正義感に盾を突く者も出てくる。JAに「高橋はミヤイにあのJA情報を流している」とチクリにもならないデマをJA幹部に電話したのだ。

私は後で、過去のあの男と女の関係のことか？ でも最後にヤッパリ女は強いよな。もしくは北長沼事務所あの部屋のことか？ それとも正義のパンチ事件のことか？ まさか昭和の800万円の話は古いし、コメや小麦をヨッコラショは事実確認できないし。JAアルバムの記憶を遡る作業は大変だ。でも、こんなことはあのJA組合員であれば、みんな周知の事実だし、たいそういぶかしく感じた。

それはそれでJA幹部が大人の対応をしてチクリ電話の件は終わった

## 小さな農業経営は難しいのだ!

Vol.157



のだが、その後、今まで作業受委託でやっていた農地を売買することになった。この売買はJAが関与しない「相対（あいたい）」と呼ばれる個人対個人（法人）の農地売買なのだ。売り手が家の解体費用のことで高橋さんのところに来たのだ。

高橋さんは「相対ですからJAは関係ありません」ときっぱり聞く耳を持たなかったのだが、売り主は納

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

得せず、多少なりとも乱暴な言葉が出たようだ。売買契約では住宅、倉庫の解体費用は売り主負担とする、となっていたので、私には事後報告のみだったが、近くにあったJA幹部に高橋さんは呼ばれ、いろいろご指導を受けたようである。

私はカン違いしてしまいました。高橋さんとだけ仲良くしてはいけないうと、農場従業員と早速JA建物内にある食料品売り場店舗でお茶20本、お菓子20個を購入して地区相談室の6名と共済部門などにお配りさせて頂いた。その時に大きな声で「高橋さん以外にも仲良くさせて頂きま〜す」とJA幹部にも聞こえるように言ったら、なぜか高橋さんはうつむき加減だった。「あれ、なんかマズイことしたかな?」とその時は思いませんでした。

後から聞くところによると配ったお茶とお菓子の半分の10本が高橋さんのところに返され、1週間かけて飲み干したとか。その時、高橋さんは「これで異動は決定した」と覚悟したようだ。ご本人も6年間も地区担当をしているので、そろそろ違う部署で学び、将来の幹部候補生として礎作りのため異動の申し出をしていたので覚悟はできていたそうだが、その原因の一端が私とは……何とも残念なことをしてしまった。

農業協同組合法はどうかわからないが、JAは農民とご自身の利益のための組織で、一般の会社組織と大きく変わることはありません。よって人事権はあり、人事の異動も必然的に発生する。お茶とお菓子を返した10人の職責を委縮させたのではと心配するところである。

## 農地の競争原理

JAながぬまも別に私に敵意を感じているわけでもないだろうし、私も農業協同組合法第一条にある地元の発展のために寄与したいと考えている。数字で述べることにしよう。

まっ平らで平ら過ぎて排水の勾配で難儀するくらい平らな私の地区の農地価格は、450万円/haになる。聞き及ぶところによると、純粋に地目が水田の農地では日本一の価格になるだろう。日本各地、小規模であればそれ以上の価格もあるだろうが、この地区は1haである30haであれ450万円/haになる。隣町では1ha当たり250万円から370万円のような。前提として農地の価格と負債の割合でA、B、Cランクがあり、払えない借金が資産（多くは農地価格）の70%になると、JA金融から呼び出しがく

る。昭和の時代は11月になると、うなだれたご夫妻が数組、金融の椅子に座っているのが見受けられたが、この30年間の農水の明確な予算配分のおかげでそのような光景も見なくなつた。農地1ha当たり250万円の70%と450万円の70%ではどのくらいの差があるかは、小学生に計算してもらいましょう。

ではなぜこの地区は450万円なのか? 誰かがスグ借りるか買うからだ。単純な競争原理になる。さ〜誰がスグ借りるか買うのでしょうか? 賢い皆さんならすぐわかりますね。農地が安いところは少なくとも私の地区よりも競争原理が成り立っていないのだろう。競争原理が成り立っていないと価格は安いから、JAが各農家に貸出できる金額が明らかに少なくなってくる。だって先ほどの70%は変わりませんからね。つまり長沼、特に私の地区の農地が高いのは、JA経営にとつても良いことになりましたね。はい、どういたしまして。

さて先ほどの建物の解体費用はものすごく上がってきている。3年前だったら1軒当たり75万円だったのが、今では200万円はくだらない。それに倉庫、木々があると簡単に500万を超える費用になる。つまり当時建てた家の金額をもう一度払

うことになる。私のように450万円/ha×面積だと何とか解体費用を売り主は払えるが、250万円/haだとどうなるのだろうか。

長沼、北海道、日本のどこをとっても20年から25年で実農家の数は半分、つまり一経営体当たりその経営年数で2倍の経営面積にすることに、それに伴い先ほどの物理的な建物処分経費が重くのしかかる。言い方を変えれば、農業家族1世代で2倍の経営面積にならない経営体は作物の変換をしていかないとけないことになる。この面積遍歴の過程は日本だけではなく、アメリカでも起きていることで、これからもその流れは変わることはないだろう。小さな農業経営は難しいのだ。

その過程でどうしても導入しなければならぬのが、稼いで稼げる遺伝子組み換え作物の導入だ。地元にはこんな方もいる。反遺伝子組換え作物の先駆者であり、北海道スローフード宣言を作った現長沼在住の北海道庁・農政元部長、副知事経験者は正直者だ。イタリア初のスローフード宣言には「小さな農業を守る」とあるが、反米でイタリア人にはなりきれなかった北海道スローフード宣言にはその言葉は見当たらない。